

経営談話室

Vol.98

中央区で80年の伝統を誇り、地域に愛される「市民のための病院」としての地位を確立してきた医療法人柏葉会柏戸病院。

最近では心臓病や糖尿病などの成人病や認知症などに力を入れ、地域医療の向上の一翼を担っています。

今回は地域医療の考え方や医療ニーズの変化などについてお話をうかがいます。

「患者にやさしくあれ」 初代の意思を継ぐ病院として

医療法人柏葉会 柏戸病院 理事長

柏戸 正英

かしわど・まさひで

昭和8年3月神戸市生まれ。高知県安芸市出身。
昭和38年千葉大医学部大学院医学研究科終了。
同年12月理事長兼3代目院長に就任。

所在地：千葉市中央区長洲2-21-8

事業内容：総合病院（病床数171床、診療科目＝
内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・
神経内科・リハビリテーション科・外科・
肛門科・眼科）

職員数：計163人（医師10人、看護師57人、
コ・メディカル39人、看護補助者32人、
事務部門25人）

創立：1928年1月



どんなに知識をもった医師に診てもらっても、信頼がなければ診療は成り立ちません

当院は、昭和3年1月16日に、当時の千葉医学専門学校（現千葉大学医学部）で内科の教授だった柏戸留吉が現在地の長洲町2丁目に建坪295坪の内科病院を開業したのが始まりです。主に結核の治療・療養が主で、その後戦争で生活環境が悪化し、伝染病などの治療も多く診るようになりました。

昭和16年に初代院長の長男で、私の義理の父である柏戸孝雄が二代目院長として病院を継ぎ、戦後の昭和26年に医療法人柏葉会柏戸病院に改称しました。病院施設も拡大して現在の病院の基礎ができました。

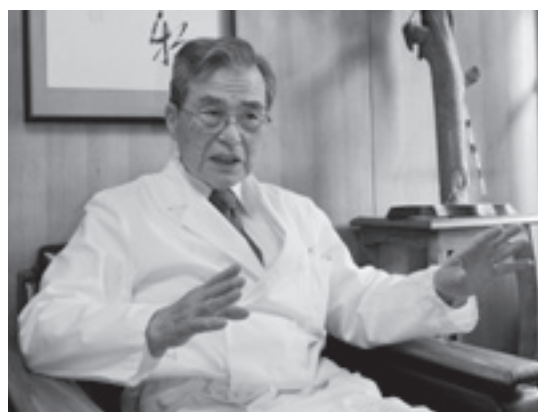
昭和38年に先代が亡くなった時、私は千葉大学の研究室で心臓病や高血圧の研究していたのですが、娘婿という関係もあり、病院経営を引き継

ぐことになりました。若干30歳での三代目院長就任でした。

その頃（昭和30年から40年代）は、高血圧や肥満、糖尿といった生活習慣に起因する症状が爆発的に増えた時代でした。これらは心臓病や脳梗塞、腎臓病といった現在の日本人の死亡原因で上位を占める病気につながっています。

その後、認知症（かつて「痴呆症」と呼ばれていた）などの脳や神経に関わる病気も増えてきました。

これらの病気を扱う当院では、内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、神経内科、リハビリテーション科、外科、肛門科、眼科の9科を備えています。なかでも私や現院長（斉藤俊弘さん）の専門である循環器系（心臓病など）、副院長（柏戸孝一さん）の専門である神経内科（脳梗塞、認知症など）と、消化器系が今では診療の重要な三本柱となっています。



信頼を得るということです。どんなに知識をもった医師に診てもらっても、信頼がなければ医療は成り立ちません。医師と患者といえども基本的には人間関係が大切です。それが「患者にやさしくあれ」なのです。

受け継がれる伝統と研究 地域の予防医療に

二代目院長・柏戸孝雄が開発した「カシワドール」という神経痛やリュウマチの注射薬は、内外で高い評価をいただきました。商標登録もされて、現在でも利用されています。

この薬の商標使用料は、財団法人柏戸記念財団の医学奨励金事業などの貴重な財源となり、地域の予防医療の推進に役立てられています。

また、先代はビタミンなどの研究も熱心で、戦中から戦後にかけて栄養不足の患者さんが多かった時代には、その知識と経験をもとに柏戸の診療に役立てられ、今も脈々と生かされています。

初代の意思を継ぐ経営理念

当院は規模は大きくはありませんが、何かキラリと光るものをこの地域にささげようと、これまで「優しい医療」、最新の機器を用いた「賢い医療」、そして何よりも「安全な医療」を目指すことを理念に掲げ、病院経営をしてきました。

この理念は、初代院長・柏戸留吉の「患者にやさしくあれ」という教えからです。

この教えは、患者さんに安心を与え、

柏戸さん「Q&A」

Q1 1日の平均的なスケジュールは？

午前中9:00～13:00は外来診療。
午後は院外団体の決裁、諸会議。
17:00から院内の会議。
19:00から医師会等の研修会。

Q2 よく読む新聞&雑誌は？

千葉日報。朝日新聞。文藝春秋。

Q3 仕事以外でハマっていることは？

クラシック音楽、テニス、合唱。

Q4 座右の銘（好きな言葉）は？

誠実。

Q5 とっておきのストレス解消法は？

大きな声で歌う（合唱でもカラオケでも）。

Q6 「やる気の源」をひと言でいうと？

気分的に老け込まない。



病院スタッフ一同が、優しい医療を心掛け 患者さんからの信頼を得たいと考えています

現在、高齢化に伴う糖尿病の増加を心配しています。実際、病院の患者さんの4分の3ぐらいは糖尿病を患っているため、今後も糖尿病治療には力を入れていきたいと考えています。

三本柱の一つ神経内科では、脳梗塞や脳血管障害、パーキンソン病、アルツハイマーなど高齢者に多い疾病が中心に、頭痛やストレスといったものを診療しています。

当院では「もの忘れ外来」を設置し、気楽に診察にきていただけるよう工夫しました。もの忘れは、加齢による記憶力の低下に起因することもあり、認知症の初期症状でも起こります。もの忘れがひどいのは年齢のためなのか、病気のためなのかを診断するのがこの外来の目的です。

もとは千葉大学医学部の神経内科に設置されましたが、患者さんが多くなったため、受け皿として平成9年に当院にも設置されました。

診療の流れとしては、検査と合わせて記憶力のテストを行い、もの忘れの度合いを把握し、単なる記憶力の低

下なのか、認知症のきざしなのかの線引きをします。これに関して現在、予約は2カ月前からでないと診療は難しい状況です。

この診療は、患者さんに対して時間をかけるため、どうしても利益追求型の病院では取り扱えない診療科目のようです。

利益追求ではなく 公平で健全な医療制度を

小泉政権が進めた市場原理主義の波が医療にも押し寄せ、病院も利益を出さなければといわれるようになりました。医療機関が利益だけを追いかけようになると、国民皆保険という世界でもあまり類のない制度が崩壊してしまうのではないかと、われわれは危惧しています。

病院経営に関わる問題として、医療は一部を除いて保険診療という枠の中に入っていて、医師の報酬には「法定価格」が決められています。どんな



名医が診療しても報酬は変わらないという不公平さは感じています。

しかし、私たちとしては現制度の枠組みの中で、利益だけを追求するのではなく、公平で健全な医療制度がつけられることを期待しています。

それこそが初代から受け継ぐ経営理念だからです。

病院スタッフ一同が、その理念の優しい医療を心掛け患者さんからの信頼を得たいと考えています。

地域や社会、患者さんのために

現在の病院は築30年以上が経過していますので、国からの耐震強化のための予算を活用し、新たな病院建設に着手しています。着工はおそらく今年秋頃になる予定です。新病院では最新の設備と快適な環境を備えた地上7階建ての建物となります。

当院には、開業当時の玄関や先代の時代に植えた楠の木などがあります。これらは、柏戸病院の歴史と伝統を伝えるものとして、新病院のどこかに残しておきたいと思っています。

初代の掲げた「患者にやさしくあれ」を受け継ぎ、地域や社会と一体となる病院経営を心掛けることをこれからも忘れずに進めていく所存です。



副院長の柏戸孝一さん